



長久手町文化の家
NAGAKUTE Cultural Center

フレンズ

No. 43

2011年5月15日発行

機関紙 フレンズ 編集部

Tel : 0561 (61) 3411

長久手町文化の家 フレンズ 年次総会を開催 4月9日 文化の家光のホールで



総会であいさつする フレンズ水野会長

平成23年4月9日土曜日、文化の家フレンズの第13回年次総会が開催されました。
文化の家川上館長のごあいさつに続き、平成22年度活動報告、会計報告を出席者全員の賛成で承認、続いて平成23年度活動計画案、予算案を可決しました。
新年度の役員紹介（3ページ参照）に続き4月から担当の文化の家職員紹介があり、新年度のスタートが切られました。
総会のあと、アトラクションと

して長久手町に在住する徳田真侑さんのバイオリンコンサートをを行いました。

徳田さんは3歳からバイオリンを習い始め、数々のコンクールで上位入賞を果たし、2010年には第64回全日本学生音楽コンクール



素晴らしい演奏を披露した徳田真侑さんのバイオリンコンサート

全国大会中学校の部で第1位を獲得されました。

コンサートはビバルディの「四季」からの春に始まり、メンデルスゾーンの「春の歌」、ブラームスの「ハンガリー舞曲」「おぼろ月夜」など季節感あふれるプログラムでした。

情感たっぷりに奏でる「さくらさくら」は、とても15歳とは思えないようなテクニクと表現力で素晴らしい演奏でした。しかし葉加瀬太郎

フレンズのつどいPart. 25

LEGEND レジェンド公演

8月20日(土)17:00開演 森のホール

指定席3,500円 自由席3,000円

(フレンズ会員は本人のみ500円割引)

チケット発売日 6月4日(土)から

メンバーのそれぞれは、オペラやコンサート、イタリアでの舞台経験で実力を養いました。グループ結成から6年、年間150を超えるステージをこなしレパートリーは200曲を超えています。

古今東西の名曲を組み合わせた迫力のステージは、きっと興奮と感動を与えてくれます。

公演の成功のために、知り合いの方にお声をかけていただくなど、皆様のご協力をお願いします

の「情熱大陸」や「ひまわり」を演奏する時には、はつらつとした高校生の徳田さんを感じました。聴衆の心をしっかりとらえ、大きな拍手と「アンコール」の声が掛かりました。
長久手町から全国へ、そして世界へと羽ばたいて行く若い演奏家を、フレンズの皆さんで応援していきたいと思いました。



文化の家

新職員の紹介

4月の長久手町役場の人事異動にともない、長久手町文化の家に5名の職員が配属されました。十分に力を発揮して文化の家をますます魅力あるものにしていただきたいと思います。
またフレンズの活動にご理解を寄せていただき、力強いご支援とご協力をよろしくお願い致します。

よかったですと言っていただける文化の家事業に



事業係長
遠藤健一

4月の人事異動で、税務課から文化の家事業係長に配属された遠藤健一です。
今までは、子どもの学芸会やピアノ発表会、地域のクリスマス会などでの鑑賞ぐらいしかなく、芸術センスがあるとは思いませんが、お客様が喜び、学び、楽しみ「とてもよかったです」というだけでる文化の家事業にしていきたいです。
フレンズさんには、大変お世話になっていまして、これからも助け合いながら文化の家事業を盛り上げていけるよう、よろしく願います。

来館者の皆様に気持ち良く文化の家を利用していただけるよう



管理係
岡本のぞみ

文化の家管理係に配属された岡本のぞみです。3月までは税務課にいました。
今まではあまり文化の家に足を運ぶ機会がありませんでしたが、これを機にたくさん作品に触れて、興味の幅を広げていきたいと思っています。
至らぬところも多々あるかと思いますが、フレンズの皆様にもご指導いただきながら、来館者の皆様に気持ち良く文化の家を利用していただけるよう頑張っていきたいと思っておりますので、よろしく願います。

魅力的な文化の家づくりに貢献したい



事業係
佐藤雄亮

文化の家事業係に配属された佐藤雄亮です。3月まで子育て支援課にいました。右も左もわからない未熟者ですが、一日も早く仕事を覚え、魅力的な文化の家づくりに貢献していきたいと思っています。私自身は今まで、あまり演劇や演奏会などを鑑賞したことはありませんでしたが、これを機に興味を持って触れていきたいと思っていますので、よろしく願います。

好奇心旺盛 舞台装置の転換に立ち会っただけでワクワク！



事業係
市野華奈子

新しく文化の家事業係に配属された市野華奈子です。3月までは、住民課にいました。

新しい場所でのスタートですが、好奇心旺盛で舞台装置の転換に立ち会うだけでとてもワクワクします！音楽、演劇、絵画、舞踊など、興味は尽きないので、せっかくこの機会に、いろいろ勉強したいと思っています。
至らぬところも多々あるかと思いますが、よろしくご教示くださるようお願い致します。

行政に携わる仕事がしたくて
転職しました



管理係
堀田一樹

文化の家管理係に配属された新規採用の堀田一樹です。大学卒業後は、民間会社に就職しましたが、行政に携わる仕事がしたいと思い、長久手町役場に転職しました。
一度社会人を経験してはいますが、1年もたらずに辞めてしまったので基本的な業務もまともにこなせず、文化の家職員の皆様にはいつも迷惑ばかりかけています。
フレンズの皆様にはご迷惑をかけるまいよう一生懸命努力してまいりますので、どうかよろしく願います。

ほかに 文化の家における 人事の異動

4月の人事異動の一環として、前ページに記載した異動のほか、前年度に文化の家事務局長補佐であった加藤登美子さんは文化の家事務局長に就任されました。また前年度まで事業係長であった靱山勝人さんが文化の家事務局長補佐に就任されました。

お二人には前にも増して、フレンズへのご支援をよろしく願います。

平成23年度フレンズ役員

会長	水野美々子
副会長	福岡八重子 (研修部長)
副会長	阪上由美子 (事業部長)
会計	山口 節子 (事務局長)
	鈴木多恵子 (当日運営部長)
	岩瀬 信廣 (機関紙部長)
	牧野 洋子 (マニュアル部長)
監査員	瀬川 典子
監査員	近藤 一英 (文化の家職員)

フレンズ役員の皆さんです。本年もよろしく願います。

公演話

ベネズエラの若者たちの音楽

「つながる」「こよの意味

文化の家事業係 生田 創

「どうしてベネズエラなの？」
昨年末、シモン・ボリバル・ブラス・クインテット長久手公演について、いろいろな方に尋ねられました。

クインテットのメンバーは、《エルシステマ》というベネズエラで30年前から始まった音楽教育システムで育った若手



アーティストたちです。
このシステムは、貧困地区を中心とした子どもたちに政府が楽器や指導の機会を無償提供し、音楽を通じて社会参加させることが目的で、現在30万人もの若者が音楽にかかわっています。そこからは世界的な指揮者やベルリン・フィルなどに入団するアーティストが次々と輩出されているのです。

メンバーは公演前日夜に到着。長時間の移動で、さすがにラテンの若者も疲れを隠せない様子でしたが、長久手町国際交流協会のみなさんのベネズエラ料理でのおもてなしにホッと一息。その夜はそのまま長久手町内でホームステイして、翌朝にはかなりリフレッシュしていました。

その後、表敬訪問、学生さんたちのクリニック、公開リハーサルを次々とこなし、コンサートでは終盤になるにつれラテン魂が全開となり、最後には熱狂の喝采を浴びました。

ラテン魂を全開させたシモン・ボリバル・ブラス・クインテットの舞台



演奏の疲れも見せず 早くサインに応じて

そして、クライマックスは長蛇のサイン会。吹奏楽をやっている学生さんたちに囲まれてメンバーの表情がもつとも輝いていたひと時でした。

彼らにとって音楽は「人とつながるツール」であり、卓越したテクニックや美しい音色も、それによって無限の出会いが待っていること、さらにその「つながり」こそが、すべてのエネルギーの源になるのだということを、彼らは幼少から《エルシステマ》の中で自然に学んできたのでした。

帰り際、車の窓越しに映った彼らの表情は、昨日とはまったく別の意気揚々とした満面の笑みでした。それにしても、昨日来た時とのギャップときたら、なんとわかりやすい……これがラテンなのでしようか……。

演劇 おもいのまま

演出・美術・音楽デザイン: 飴屋法水 脚本: 中島新
出演: 石田えり 音尾琢真 山中崇/佐野史郎

7月15日(金) 開演19:00(開場は30分前)
風のホール

全指定席 S席:1,500円 A席:1,000円

日常に全方位から突きつけられる「選択」と「結果」の
化学反応を完全劇化!

観客は舞台上に「人生」を目撃する。

※未就学児の同伴・入場はできません

人形劇団ブーク

「三びきの やぎ の がらがらどん」

同時上演「ぼちぼちいこか」

7月30日(土) 開演14:00(開場は30分前)
風のホール

前売 フレンズ 1,500円 一般 1,800円
小学生以下 800円

当日 2,300円 小学生以下 1,300円
全自由席 (2歳以下のひざ上鑑賞は無料)

人気の絵本をもとにした人形劇の2本立て
老舗人形劇団ブークがお届けします

東海バロックプロジェクト 第1回公演

輝かしい古楽の祭典

東海地区の古楽アーティストたちが結集して映像とともに
お届けする感動のバロック音楽。魅力満載のコンサート!

9月11日(日) 開演15:00(開場は30分前)
森のホール 全自由席

前売 フレンズ 2,300円 一般 2,500円

当日 3,000円

親子券 3,000円

曲目 ヴィヴァルディ:コンチェルトグロソ「アラ・ルスティカ」
テレマン:リコーダーとフラウト・トラヴェルソのための協奏曲
シュッツ:マニフィカート
バッハ:チェンバロ協奏曲 BWV1052
ヘンデル:オペラ「セルセ」よりアリア「かつて木陰ほど」
ほか

室内で聴こう! シリーズ2011

カルテットの魅力は一生モノ

「室内で聴こう!」シリーズは「小さな場所で大きな感動」をテーマに、クラシックの名曲を“ありのまま身近に一品ずつ”紹介する企画です。とっつきにくいと思われがちなカルテット。でもハイドンのかるやかな「ひばり」や、モーツァルトの哀しくも美しい「K421」の旋律を耳にしたら、きっと“弦楽四重奏”があなたの一生モノになるはずですよ。

7月 7日(木) 展示室 ハイドン:弦楽四重奏曲「ひばり」

9月14日(水) 音楽室 ハイドン:弦楽四重奏曲セレナード
モーツァルト:弦楽四重奏曲 K156

11月24日(木) 展示室 モーツァルト:弦楽四重奏曲 K421

2012年2月29日(水) 音楽室

ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 作品18-4

各日とも 開演20:00(開場は30分前) 全自由席

4回通し券 3,000円 1回券 1,000円

※未就学児の入場はできません

幸せに思う

ほっとすぺーす

長久手在住 堀田 弥

凛とした二月の寒さ、窓を開け放し掃除を済ませ庭に出て水仙を手折り、葉の捻り、花の向きにも納得して床の間に飾る。また託助の一枝を選び、弱々しくも気品に満ちた貝母(ばいも)を手折る時のためらいや、秋には杜鵑草(ほととぎす)の花の色に見惚れ、しばし佇む。さてこの場所に、この花器で、どの花をと、調和を考える時の楽しさは、何をも忘れての充実の時である。

雨の日や冬の間は、ソファに寝ころんでの読書が安らぎである。

軍国少女時代に歌った大連や、奉天も訪れてみたいと夢みながらも、かなわぬ歳になり「坂の上の雲」で昔を知り、五年前に試みた「カラマゾフの兄弟」も旅が終わってから、荒涼と果てしなく続く大地と、見聞きた文化を思い浮かべながら、三ヶ月も要して読破した。次はと、本棚の前

に立つのもまた胸が躍る。

雨上がりには、二十本から始まった杉苔を庭一面にと移植したり、無くなったの草取りも、満ちたりた静かな境地である。

当町県芸の多くの卒業生の中で、松村公嗣先生の卒業展を学舎で拝見以来、春秋の院展は楽しみである。その発展の凄さに感嘆し、時に描かれる長久手の風物詩に思いを馳せる。

本年の文藝春秋の表紙絵は数枚切り取って眺め長久手の誇りと、住む身の嬉しさを味わっている。

曲がった腰を伸ばしつつ、少し緊張しての、フレンズスタッフへの参加も、自ら求めた憩いと幸せの場である。多くの友と共に、お客様の満足の笑顔に接し、奉仕の喜びと、広く芸術を知る感謝のこの頃である。

編集者コラム

「人は仲間を支えられることでいかなる困難にも……」
「生かされている命に感謝……」甲子園のセンバツ球児の選手宣誓に不覚にも涙した。東日本大震災以降、皆が語る言葉に重み加わったように感じられる。

それにしても、これから長いながい時間をかけて、震災の被災者を支え、復興に進まねばならない。

いま、その覚悟を問われつつある。